

北の国からの贈り物

真夏の オルガンコンサート 2026

マルシャン：
オルガン曲集 第1巻より プラン・ジュートノールの三度管

ブクステフーデ：前奏曲 短調 BuxWV148

J.S.バッハ：
パッサカリアとフーガ 短調 BWV582

ライブツイヒ・コラール集より おお愛する魂よ、汝を飾れ BWV654

われらの救い主なるイエス・キリスト BWV688

「われらの救い主なるイエス・キリスト」によるフーガ BWV689

アラン：連祷 AWV100

ヴィエルヌ：
オルガン交響曲 第2番 短調 作品20より 第2楽章 コラール

※休憩なし。約60分間のコンサートです。



© Hiroharu Takeda

[オルガン] 赤枝 サンテソン 留果
(第26代札幌コンサートホール Kitara 専属オルガニスト)

2026 8/1 (土)

19:00開演(18:20開場)
全席指定 2,750円(税込)

ザ・シンフォニーホール

主催：ザ・シンフォニーホール
協力：札幌コンサートホール(札幌市芸術文化財団)

ご予約・お問合せ

■ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(火曜定休) <https://www.symphonyhall.jp>

プレイガイド

■e+(イープラス) <https://eplus.jp/symphonyhall> (パソコン・携帯)
■ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonyhall> [Lコード:52392]
■チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonyhall/> [Pコード:320-352]

詳しい内容はこちら▶



*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。*やむを得ない事情により曲目、曲順が変更になる場合がございます。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

真夏のオルガンコンサート

ザ・シンフォニーホール恒例、真夏のオルガンコンサート。今回迎えるのは第26代札幌コンサートホール専属オルガニストの赤枝サンテソン留果だ。イタリアのミラノに生まれ、幼少期よりパリでオルガンを学び始め、現在はドイツのハンブルク音楽演劇大学で学びながら世界各国で演奏活動を行なっている若き俊英。「最も敬愛する音楽家はバッハ」という彼が選んだのは、J.S.バッハの名曲を中心に、そのバッハに大きな影響を与えたブクステフーデの代表曲、さらに17世紀から20世紀のフランスオルガン音楽の真髄ともいえる曲が散りばめられている。まるで時空を超えた名曲の贈り物のようだ。「オルガンを弾くことは、オルガンとの対話。ザ・シンフォニーホールのオルガンとの出会いがとても楽しみです」と話す赤枝。その日、ホールでどんな対話が奏でられるだろうか。

文 丸谷恵子



© Hiroharu Takeda

MESSAGE

このたび、私にとって初の大阪でのコンサートを企画していただき、とても嬉しく思います。2017年頃に祖母が、その後は家族が奈良に移り住んだこともあり、私にとって大阪は親しみ深い街でありながら、いつも心の中の特別な場所でした。大きな街、名所の数々、食文化も含めた体験の豊富さは、幼い私にとってはゲームのようで、すっかりこの街に魅了されていました。この感覚を音楽に置き換えるとしたら、真っ先に思い浮かぶのがJ.S.バッハです。探求し尽くせないほど膨大な作品群、緻密で複雑な書法、そして作品の随所に隠された数々の驚きは、大阪と多くの共通点を持っていると思います。J.S.バッハを中心に、多様性と一体感を大切に構成した今回のプログラムが、大阪の皆さまに楽しんでいただけることを願っています。

第26代札幌コンサートホール Kitara 専属オルガニスト

[オルガン] **赤枝 サンテソン 留果** Luca Akaeda Santesson

2001年イタリアのミラノ生まれ。幼少より音楽に興味を持ち、パリ17区クロード・ドビュッシー音楽院にてジャン＝フランソワ・アトンのオルガンクラスで音楽の道を歩み始める。リヨン国立地方音楽院にてリオネル・アヴォ、イヴ・ラファルグに、リヨン国立高等音楽院にてフランソワ・エスピナス、リズベズ・シュルンベルジェに師事し学士号と修士号を取得。現在はハンブルク音楽演劇大学の国家演奏家資格課程にてピーター・ファン・ダイクに師事している。

2022年ジャン＝ルイ・フローレンツ国際オルガンコンクールではグランプリ及び聴衆賞、第2回オリヴィエ・メシアン国際コンクールでは第2位及びメシアン作品最優秀演奏賞を受賞。23年オランダのアルクマールで開催された第15回シュニットガー国際オルガンコンクールにて優勝し、24年のECHO (European Cities of Historical Organs) の若手オルガニスト・オブ・ザ・イヤーにも選出された。

2025年9月第26代札幌コンサートホール専属オルガニストに就任。

幻想的な世界が広がる ザ・シンフォニーホールのパイプオルガン

ザ・シンフォニーホールの舞台正面に厳かに佇むパイプオルガンは「本格的なコンサートホールには、ヨーロッパの伝統的なパイプオルガンが欠かせない」という強い想いのもと、スイスの名門オルガンビルダー「クーン社」によって生み出されました。透明感のある明瞭な音の特徴で、3,732本のパイプから成り、3段の手鍵盤と低いパイプを鳴らす足鍵盤、音色を調整する54のストップがあります。オルガニストの感性、音楽解釈によって、様々な音色が組み合わせられていきます。残響2秒というクラシック音楽にとって最適といわれるザ・シンフォニーホールの豊かな響きの中に広がるパイプオルガンの音色は、まるで巨大な楽器の中にいるかのような壮大で幻想的な世界へ誘ってくれます。



ザ・シンフォニーホールの最新情報をチェック!

